

長浜企業 景況調査

報告書



実績 2025年 **10月~12月**

見通し 2026年 1月~3月

今期のトピックス

- ①米国の追加関税措置による影響について
- ②経営コストについて



アプリのご紹介

スマホやタブレットでご利用いただける、長浜商工会議所の専用アプリケーション“長浜商工会議所 News”をリリースいたしました！
 発信した情報を「いち早く」「多くの方に」見ていただくことを目的に作成したアプリです。
 補助金やセミナー・イベント情報等々、情報に更新があるとアプリに通知が届きます☆(要設定なので、ぜひプッシュ通知はONにしてください！)
 健康診断や検定試験などのご案内もございますので、代表や担当の方だけでなく、社員皆さままでご利用いただけたらと思います(^^)

■Android・タブレットをご利用の方→
 Google Play ストアからダウンロード



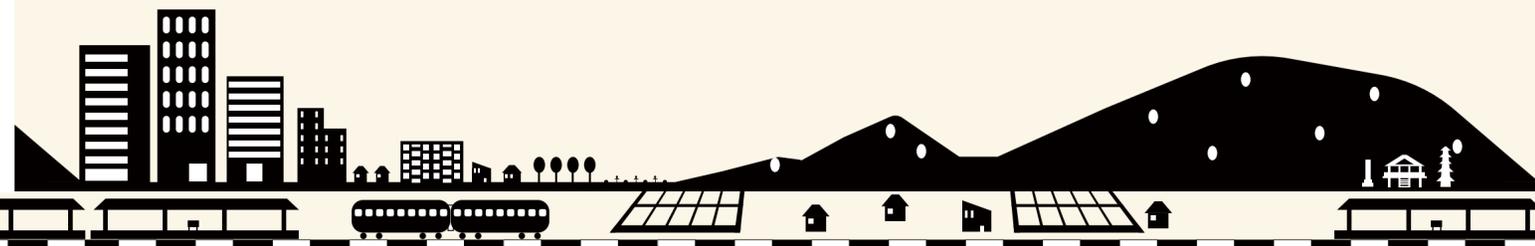
■Iphone・ipad をご利用の方→
 App Store からダウンロード



「長浜商工会議所」とご検索ください(^^)!



 **長浜商工会議所**
 NAGAHAMA Chamber of Commerce and Industry



コンテンツ

01 調査概要

05 業種ごとの動向
(卸売業・小売業・サービス業・建設業・製造業)

02 今期のトピックス

07 設備投資の有無

03 全体の景況感 (総括)

08 調査項目別 DI の推移

04 調査項目別 DI 値

10 その他業種別自由意見

04 業種別業況 DI の推移 (長期トレンド)

調査概要

長浜企業景況調査について

① 調査対象期間・調査時点

調査対象期間: 令和7年10月~12月
調査時点: 令和8年1月1日

② 調査方法

長浜商工会議所会員企業220社へのFAX方式
・メール方式による調査

③ 調査対象企業数

220社 (内訳は右表通り)

④ 報告者

中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	21	9.5%	13	9.5%	61.9%
小売業	35	15.9%	18	13.1%	51.4%
サービス業	84	38.2%	50	36.5%	59.5%
建設業	38	17.3%	21	15.3%	55.3%
製造業	42	19.1%	35	25.5%	83.3%
合計	220	100.0%	137	100.0%	62.3%

長浜企業景況調査の見方について

DI 指数について

- ① 調査結果を示す指数としてDI指数を採用しています。
- ② 調査項目のうち、「業況(自社)」「売上高」「採算(経常利益)」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向(同業他社)」「長・短期資金借入難易度」「受注動向(建設業)」「在庫量(製造業)」のDI指数は前年同期と比較しています。
- ③ 「取引の問合せ」と「採算の水準」のDI指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

DI 指数の見方について

- ① DI指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気が良い」と判断されます。
- ② このDI指数を前期、今期、来期とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。
- ③ 業況DIは経営者の景況感を反映しています。主観的な要素もはありますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いです。
- ④ 資金繰りDIは概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。
- ⑤ 小売業は売上高DI、卸売業は資金繰りDI、サービス業は従業員DIの推移が注目する指数です。
- ⑥ 建設業は季節による影響が業況DIに認められています。これは公共工事との連動のため1~3月期は総じて低調な傾向となります。

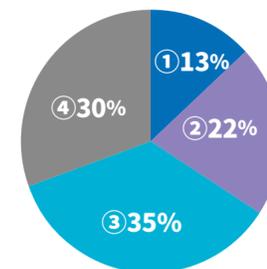
設備投資の見方について

- ① 好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。

今期のトピックス

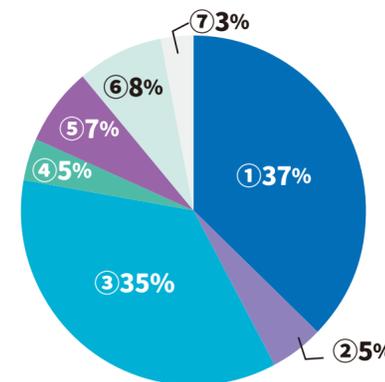
1. 米国の追加関税措置による影響

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
① 悪影響がある	2	1	2	4	9	18
② 少し悪影響がある	4	3	7	8	7	29
③ 悪影響はない	5	6	17	7	12	47
④ 無関係な業種・職種	2	8	23	1	7	41
合計	13	18	49	20	35	135



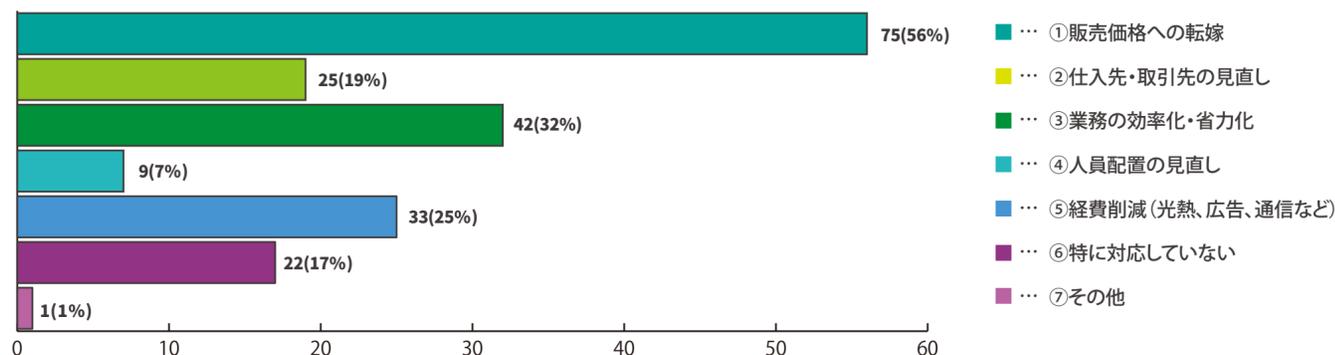
2. コスト上昇の中で最も経営に影響している費用

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
① 原材料費	3	10	14	10	13	50
② 電気・ガスなどエネルギー費	0	1	3	0	3	7
③ 人件費	3	3	21	4	16	47
④ 物流費	3	3	0	0	0	6
⑤ 外注費	2	0	2	4	1	9
⑥ 設備維持費・修繕費	2	0	7	1	1	11
⑦ 特になし	0	0	3	1	0	4
合計	13	17	50	20	34	134



2-2. コスト上昇への対応 (複数回答あり、有効回答社数 133 社、回答数 207)

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
① 販売価格への転嫁	8	10	20	11	26	75
② 仕入先・取引先の見直し	2	4	5	5	9	25
③ 業務の効率化・省力化	5	7	13	3	14	42
④ 人員配置の見直し	0	0	4	1	4	9
⑤ 経費削減(光熱、広告、通信など)	3	5	9	3	13	33
⑥ 特に対応していない	1	4	15	1	1	22
⑦ その他	0	1	0	0	0	1
合計	19	31	66	24	67	207



※各項目の()内の割合は、回答社数に占める割合(複数回答のため合計は100%にならない)

全体の景況感（総括）

業況DIは2期連続マイナス幅が縮小

全体の業況DIは、前期（2025年7-9月期）の▲2.9から今期は▲1.5と2期連続でマイナス幅が縮小しました。売上高DIは2.2で前期比7.3ポイント、採算（経常利益）DIは▲3.7で同5.9ポイント、ともに3期ぶりに上昇しました。

販売価格DIは38.6で前期比▲0.2ポイント、仕入れ価格DIは62.9で同▲0.3ポイント、ともに低下しました。その結果、販売価格DIから仕入れ価格DIを差し引いた価格転嫁度は▲24.3で同0.1ポイントマイナス幅が縮小しました。

従業員DIは▲29.1で、3期連続で不足感が強まりました。

来期（2026年1-3月期）の業況DIは▲2.3で今期より0.8ポイントマイナス幅が拡大する見通しとなっています。

業況DIは小売業、卸売業が上昇

業種別の業況DIは、小売業、卸売業は上昇、建設業、製造業、サービス業は低下しました。売上高DIは、建設業を除く4業種で上昇しました。採算DIは、卸売業、サービス業、小売業は上昇、建設業は横ばい、製造業はやや低下しました。従業員DIは、すべての業種で不足感が強まりました。

卸売業は、売上高DI（15.4）、採算DI（7.7）がともに上昇しプラス圏となり、業況DI（0.0）は上昇しました。取引の問い合わせDI、業界動向DIともに11期ぶりにマイナス圏を脱しました。小売業は、売上高DI（5.6）、採算DI（▲5.6）がともに上昇し、加えて資金繰りDI（11.8）がコロナ禍後最も高くなり、業況DI（16.7）は上昇5期ぶりにプラス圏となりました。サービス業は、売上高DI（6.1）、採算DI（4.1）がともに上昇しましたが、業況DI（8.0）は低下しました。建設業は、売上高DI（▲33.3）はマイナス幅が拡大、採算DI（▲14.3）は横ばいで、業況DI（▲23.8）はマイナス幅が拡大しました。製造業は、売上高DI（11.4）は上昇し3期ぶりにプラス圏となりましたが、採算DI（▲11.4）はマイナス幅がやや拡大し、業況DI（▲11.4）はマイナス幅が拡大しました。

来期の業況DIは、建設業は上昇、製造業はマイナス幅が縮小、卸売業は横ばい、小売業、サービス業は低下する見通しとなりました。

設備投資計画はやや強まる

本調査と同時に実施した「設備投資の計画状況」調査によると、設備投資計画が「ある」と答えた企業の割合は前期より5.5ポイント増加し27.0%となりました。最も高かったのは製造業（42.9%）で、次いで建設業（28.6%）、卸売業（23.1%）、サービス業（22.0%）、小売業（11.1%）の順でした。

投資内容では、景気回復期に強まる「生産力増加」投資（18.9%）と「合理化・省力化」投資（27.0%）の合計が45.9%と前期より1.1ポイント増加しました。減少が続いていた「生産力増加」投資は5期ぶりに増加（+5.1ポイント）しました。

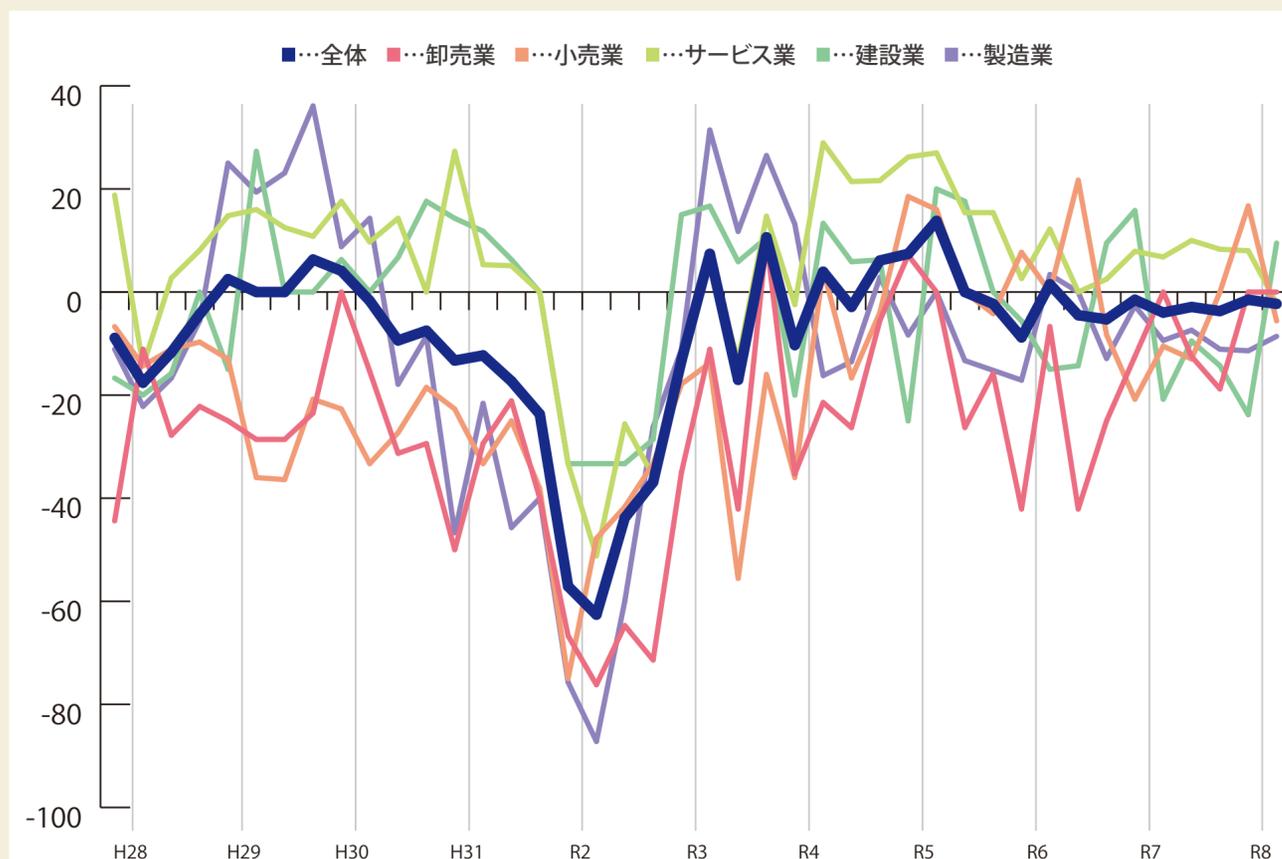
採算DIが18四半期（4.5年）連続でマイナス圏が続く中、設備投資の機会を探る動きが続きます。

（中小企業診断士 川副 郷一郎）

調査項目別 DI 値

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
業況	▲ 5.3	▲ 1.5	▲ 4.0	▲ 2.9	▲ 1.5	▲ 2.3
売上高	0.0	1.5	▲ 2.0	▲ 5.1	2.2	6.0
採算(経常利益)	▲ 8.3	▲ 3.7	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 3.7	▲ 6.7
資金繰り	▲ 8.3	▲ 6.0	▲ 2.7	0.0	2.3	▲ 1.5
従業員	▲ 24.4	▲ 20.3	▲ 20.8	▲ 24.3	▲ 29.1	▲ 29.5
取引の問い合わせ	▲ 6.9	▲ 17.6	▲ 6.8	▲ 12.0	0.0	▲ 11.4
採算の水準	20.5	11.4	23.8	13.5	23.5	16.3
販売価格	41.2	47.0	40.7	38.8	38.6	42.5
仕入れ価格	71.5	78.0	66.0	63.2	62.9	64.1
業界動向	▲ 20.5	▲ 30.8	▲ 17.9	▲ 21.8	▲ 15.9	▲ 16.5
借入難易度(長期)	▲ 0.8	0.8	7.1	0.8	3.1	1.6
借入難易度(短期)	4.8	2.3	9.2	6.2	8.5	4.8
受注動向(建設業)	0.0	15.8	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 28.6	▲ 4.8
在庫量(製造業)	▲ 3.7	▲ 12.9	▲ 14.8	▲ 8.3	10.0	3.2

業種別業況DIの推移（長期トレンド）



※R8.1-3のDIは見通し

業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業）

業況の動き アイコンの説明

- 前期の業況DI値から +1以上
- 前期の業況DI値から +1未満 ▲1超
- 前期の業況DI値から ▲1以下

※全国の業況DI... 「中小企業業況調査」 (中小企業庁)結果より

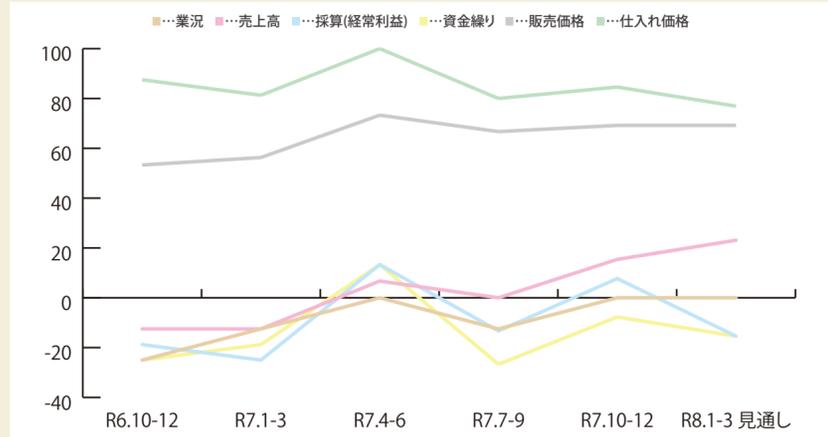
卸売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI ▲15.1→▲15.6

長浜: 業況DI ▲12.5→0.0

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
業況	▲25.0	▲12.5	0.0	▲12.5	0.0	0.0
売上高	▲12.5	▲12.5	6.7	0.0	15.4	23.1
採算(経常利益)	▲18.8	▲25.0	13.3	▲13.3	7.7	▲15.4
資金繰り	▲25.0	▲18.8	13.3	▲26.7	▲7.7	▲15.4
販売価格	53.3	56.3	73.3	66.7	69.2	69.2
仕入れ価格	87.5	81.3	100.0	80.0	84.6	76.9



事業者の声

好転

- 受注が増えた
- 輸入商品の仕入れ価格は上がっているが、日本製商品の仕入れ価格は落ち着いてきている
- 年度当初に比べたらよい結果になっている

悪化

- 仕入れ価格の上昇
- お客様からの設備投資のお話が極めて少ない

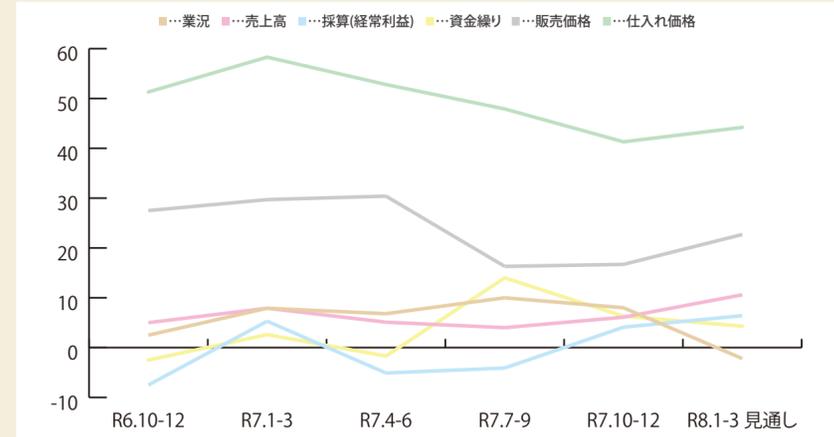
サービス業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI ▲11.1→▲13.2

長浜: 業況DI 10.0→8.0

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
業況	2.5	7.9	6.8	10.0	8.0	▲2.2
売上高	5.0	7.9	5.1	4.0	6.1	10.6
採算(経常利益)	▲7.5	5.3	▲5.1	▲4.1	4.1	6.4
資金繰り	▲2.5	2.6	▲1.7	14.0	6.3	4.3
販売価格	27.5	29.7	30.4	16.3	16.7	22.7
仕入れ価格	51.3	58.3	52.8	47.9	41.3	44.2



事業者の声

好転

- 燃料費価格低下によるコスト削減効果
- 利用を終了される方が減少し新規利用者が増加した
- 料金の見直しをして収支が合ってきた

悪化

- 人件費の上昇に伴い社会保険料の手続きが必要になり経費が増加
- 電子機器や車両の価格高騰とまらず設備投資に勇気がある
- 訪日中国人観光客が減少し都市部の宿泊料が安くなっているため、今後その影響が懸念される

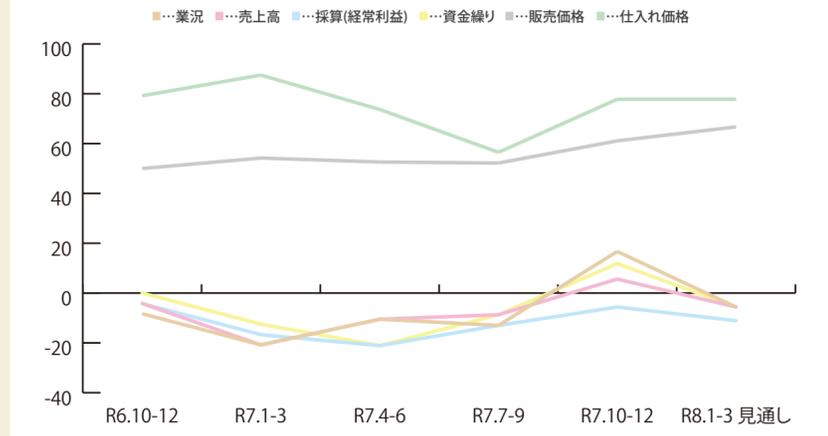
小売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI ▲26.2→▲28.4

長浜: 業況DI ▲13.0→16.7

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
業況	▲8.3	▲20.8	▲10.5	▲13.0	16.7	▲5.6
売上高	▲4.2	▲20.8	▲10.5	▲8.7	5.6	▲5.6
採算(経常利益)	▲4.2	▲16.7	▲21.1	▲13.0	▲5.6	▲11.1
資金繰り	0.0	▲12.5	▲21.1	▲8.7	11.8	▲5.6
販売価格	50.0	54.2	52.6	52.2	61.1	66.7
仕入れ価格	79.2	87.5	73.7	56.5	77.8	77.8



事業者の声

好転

- 業況の改善が感じられ問い合わせが多くなった
- イベントが活発になり売上げも増えた
- 取引先の増加

悪化

- 取引業者の送料負担増
- 客数が減っている
- 石産業の衰退

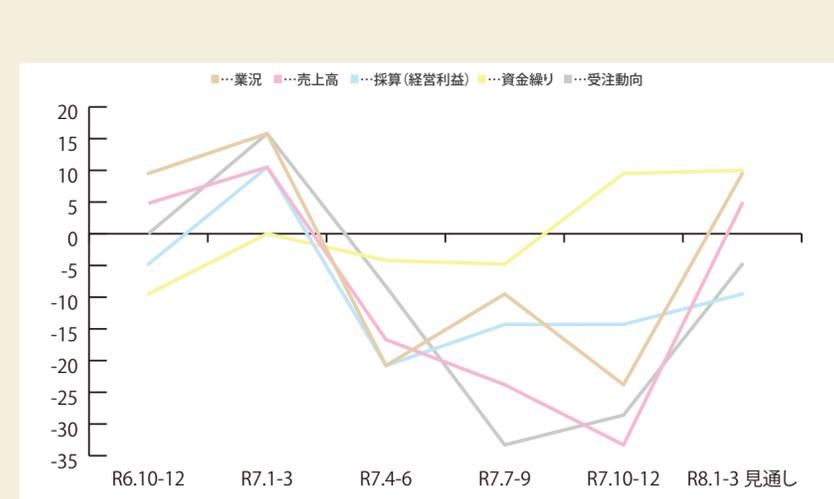
建設業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI ▲9.4→▲8.7

長浜: 業況DI ▲9.5→▲23.8

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
業況	9.5	15.8	▲20.8	▲9.5	▲23.8	9.5
売上高	4.8	10.5	▲16.7	▲23.8	▲33.3	4.8
採算(経常利益)	▲4.8	10.5	▲20.8	▲14.3	▲14.3	▲9.5
資金繰り	▲9.5	0.0	▲4.2	▲4.8	9.5	10.0
受注動向	0.0	15.8	▲8.3	▲33.3	▲28.6	▲4.8



事業者の声

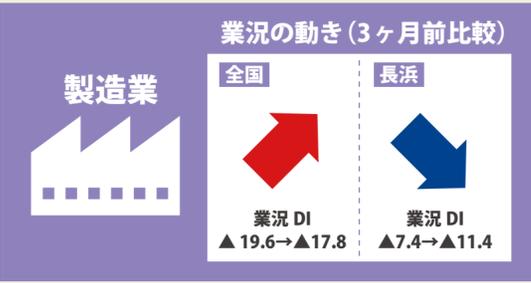
好転

- 元請け先が増え売上げも増えた
- 昨期より仕事の流れがある
- 材料費、人件費の上昇分を販売価格へ転嫁できるようになってきた

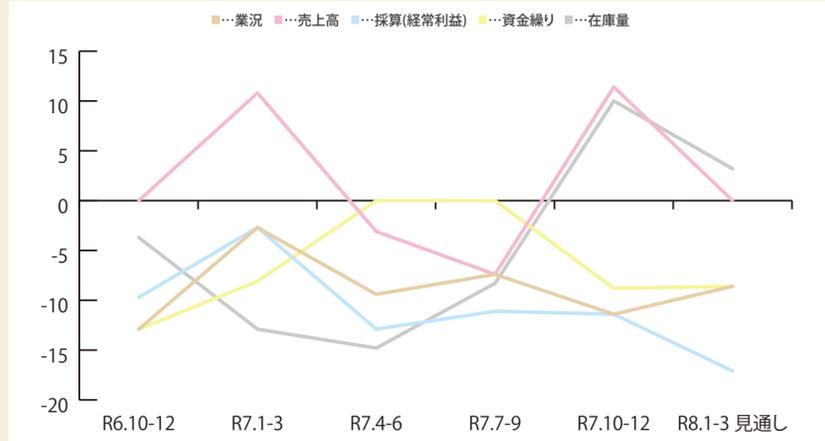
悪化

- 受注額が小さくなってきている
- 原材料費の高騰
- 設備投資が一服感あり

業種ごとの動向（製造業）



	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
業況	▲12.9	▲2.7	▲9.4	▲7.4	▲11.4	▲8.6
売上高	0.0	10.8	▲3.1	▲7.4	11.4	0.0
採算(経常利益)	▲9.7	▲2.7	▲12.9	▲11.1	▲11.4	▲17.1
資金繰り	▲12.9	▲8.1	0.0	0.0	▲8.8	▲8.6
在庫量	▲3.7	▲12.9	▲14.8	▲8.3	10.0	3.2



事業者の声

好転

- 受注が徐々に回復し生産が増える製品が増えてきた
- 価格転嫁が一定程度浸透し、増収増益につながった
- 新規顧客からの問い合わせ増

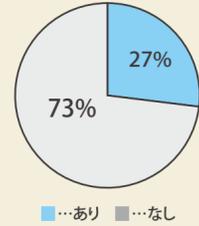
悪化

- 原材料価格や人件費は上昇しており、利益率は悪化傾向
- 為替円安が続き輸入原材料仕入れ価格の高騰で複数国、複数企業との交渉と品質確認作業に時間と手間がかかっている
- 半導体装置の設備投資落ち込み

設備投資の有無

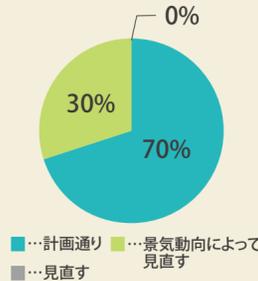
① 設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	3	2	11	6	15	37
なし	10	16	39	15	20	100



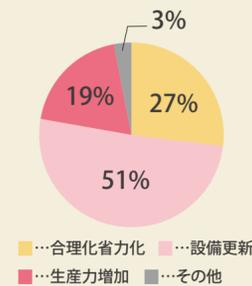
② ①で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り	1	2	8	4	11	26
景気動向によって見直す	2	0	3	2	4	11
見直す	0	0	0	0	0	0



③ ①で「あり」と答えた場合、計画の内容について

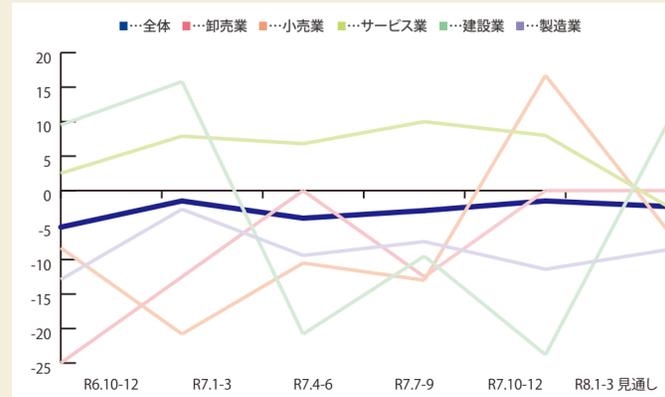
	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	0	0	2	3	5	10
設備更新	2	1	7	3	6	19
生産力増加	1	1	2	0	3	7
その他	0	0	0	0	1	1



調査項目別 DI の推移①

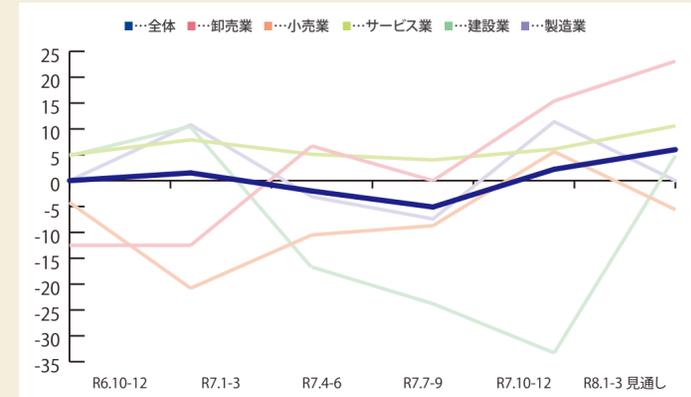
業況（好転-悪化）

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	▲5.3	▲1.5	▲4.0	▲2.9	▲1.5	▲2.3
卸売業	▲25.0	▲12.5	0.0	▲12.5	0.0	0.0
小売業	▲8.3	▲20.8	▲10.5	▲13.0	16.7	▲5.6
サービス業	2.5	7.9	6.8	10.0	8.0	▲2.2
建設業	9.5	15.8	▲20.8	▲9.5	▲23.8	9.5
製造業	▲12.9	▲2.7	▲9.4	▲7.4	▲11.4	▲8.6



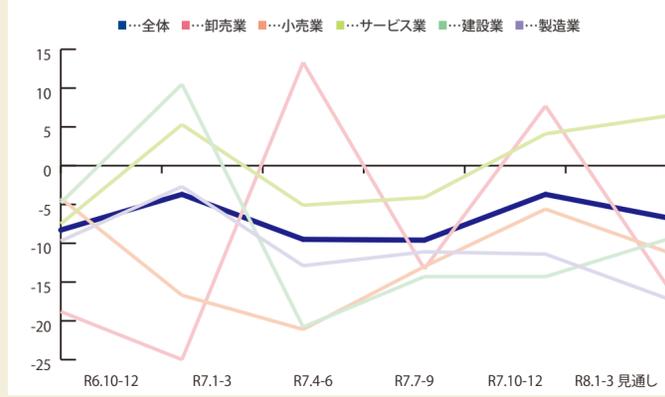
売上高（増加-減少）

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	0.0	1.5	▲2.0	▲5.1	2.2	6.0
卸売業	▲12.5	▲12.5	6.7	0.0	15.4	23.1
小売業	▲4.2	▲20.8	▲10.5	▲8.7	5.6	▲5.6
サービス業	5.0	7.9	5.1	4.0	6.1	10.6
建設業	4.8	10.5	▲16.7	▲23.8	▲33.3	4.8
製造業	0.0	10.8	▲3.1	▲7.4	11.4	0.0



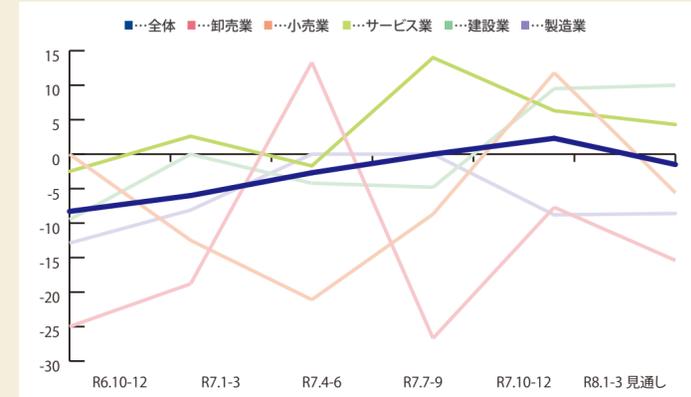
採算（好転-悪化）

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	▲8.3	▲3.7	▲9.5	▲9.6	▲3.7	▲6.7
卸売業	▲18.8	▲25.0	13.3	▲13.3	7.7	▲15.4
小売業	▲4.2	▲16.7	▲21.1	▲13.0	▲5.6	▲11.1
サービス業	▲7.5	5.3	▲5.1	▲4.1	4.1	6.4
建設業	▲4.8	10.5	▲20.8	▲14.3	▲14.3	▲9.5
製造業	▲9.7	▲2.7	▲12.9	▲11.1	▲11.4	▲17.1



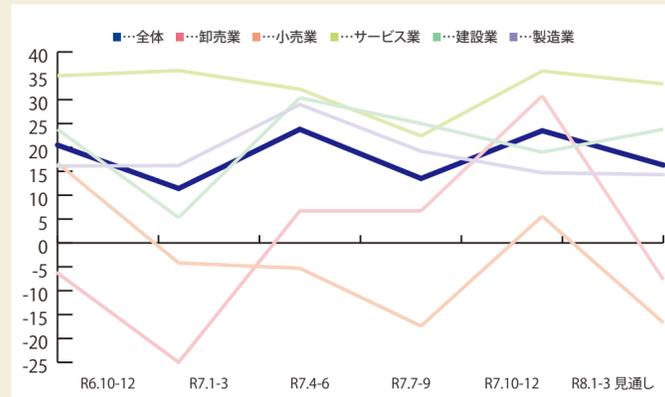
資金繰り（好転-悪化）

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	▲8.3	▲6.0	▲2.7	0.0	2.3	▲1.5
卸売業	▲25.0	▲18.8	13.3	▲26.7	▲7.7	▲15.4
小売業	0.0	▲12.5	▲21.1	▲8.7	11.8	▲5.6
サービス業	▲2.5	2.6	▲1.7	14.0	6.3	4.3
建設業	▲9.5	0.0	▲4.2	▲4.8	9.5	10.0
製造業	▲12.9	▲8.1	0.0	0.0	▲8.8	▲8.6



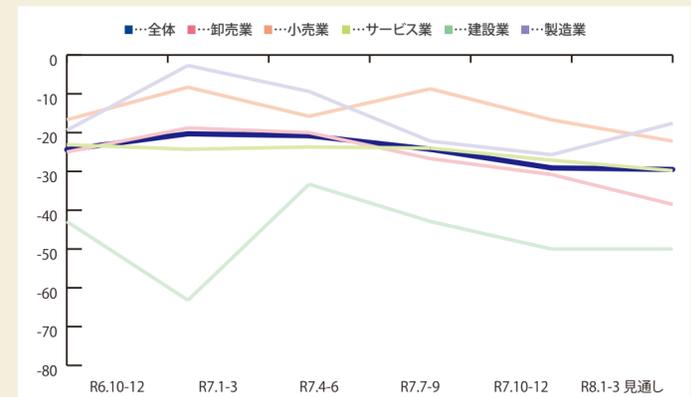
採算の水準（黒字-赤字）

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	20.5	11.4	23.8	13.5	23.5	16.3
卸売業	▲6.3	▲25.0	6.7	6.7	30.8	▲7.7
小売業	16.7	▲4.2	▲5.3	▲17.4	5.6	▲16.7
サービス業	35.0	36.1	32.2	22.4	36.0	33.3
建設業	23.8	5.3	30.4	25.0	19.0	23.8
製造業	16.1	16.2	29.0	19.2	14.7	14.3



従業員（過剰-不足）

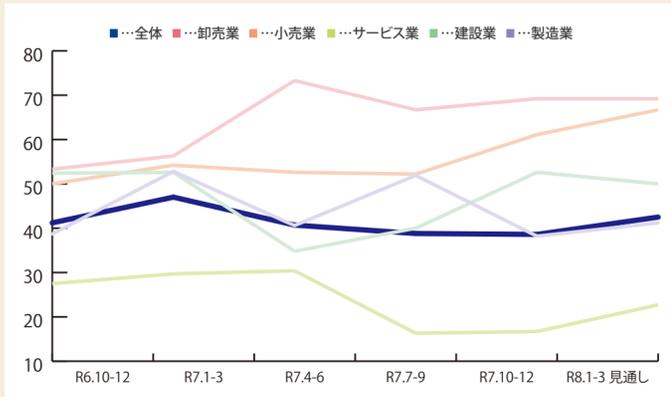
	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	▲24.4	▲20.3	▲20.8	▲24.3	▲29.1	▲29.5
卸売業	▲25.0	▲18.8	▲20.0	▲26.7	▲30.8	▲38.5
小売業	▲16.7	▲8.3	▲15.8	▲8.7	▲16.7	▲22.2
サービス業	▲23.1	▲24.3	▲23.7	▲24.0	▲27.1	▲29.8
建設業	▲42.9	▲63.2	▲33.3	▲42.9	▲50.0	▲50.0
製造業	▲19.4	▲2.7	▲9.4	▲22.2	▲25.7	▲17.6



調査項目別 DI の推移②

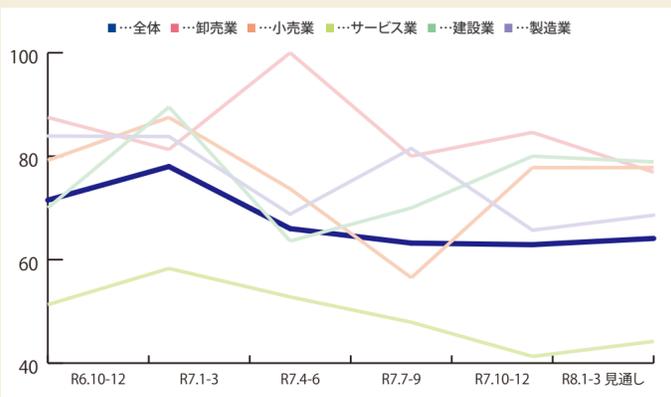
販売価格(上昇-下落)

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	41.2	47.0	40.7	38.8	38.6	42.5
卸売業	53.3	56.3	73.3	66.7	69.2	69.2
小売業	50.0	54.2	52.6	52.2	61.1	66.7
サービス業	27.5	29.7	30.4	16.3	16.7	22.7
建設業	52.4	52.6	34.8	40.0	52.6	50.0
製造業	38.7	52.8	40.6	51.9	38.2	41.2



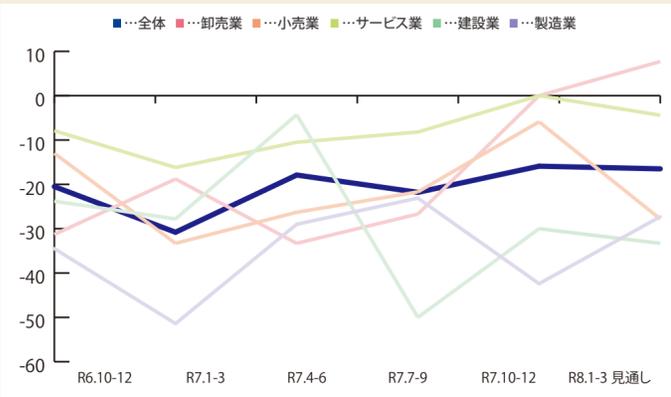
仕入価格(上昇-下落)

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	71.5	78.0	66.0	63.2	62.9	64.1
卸売業	87.5	81.3	100.0	80.0	84.6	76.9
小売業	79.2	87.5	73.7	56.5	77.8	77.8
サービス業	51.3	58.3	52.8	47.9	41.3	44.2
建設業	70.0	89.5	63.6	70.0	80.0	78.9
製造業	83.9	83.8	68.8	81.5	65.7	68.6



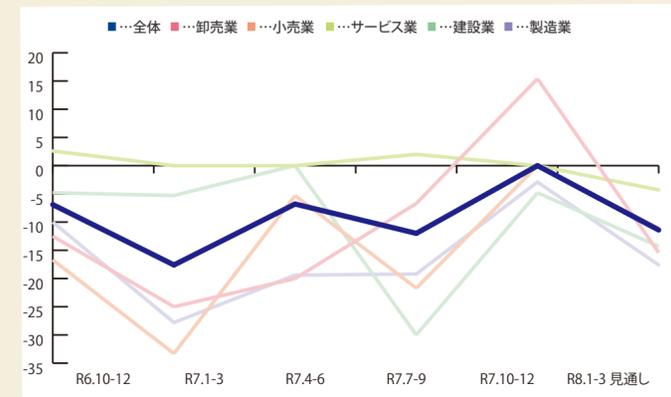
業界動向(好転-悪化)

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	▲20.5	▲30.8	▲17.9	▲21.8	▲15.9	▲16.5
卸売業	▲31.3	▲18.8	▲33.3	▲26.7	0.0	7.7
小売業	▲13.0	▲33.3	▲26.3	▲21.7	▲5.9	▲27.8
サービス業	▲7.9	▲16.2	▲10.5	▲8.2	0.0	▲4.4
建設業	▲23.8	▲27.8	▲4.3	▲50.0	▲30.0	▲33.3
製造業	▲34.5	▲51.4	▲29.0	▲23.1	▲42.4	▲27.3



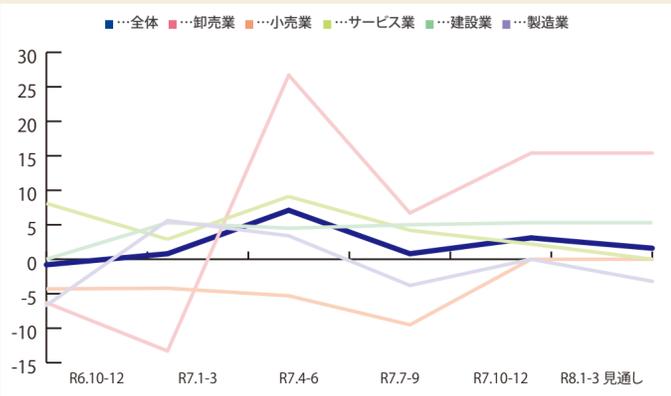
取引問合せ(活発-低調)

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	▲6.9	▲17.6	▲6.8	▲12.0	0.0	▲11.4
卸売業	▲12.5	▲25.0	▲20.0	▲6.7	15.4	▲15.4
小売業	▲16.7	▲33.3	▲5.3	▲21.7	0.0	▲11.1
サービス業	2.6	0.0	0.0	2.0	0.0	▲4.3
建設業	▲4.8	▲5.3	0.0	▲30.0	▲4.8	▲14.3
製造業	▲10.0	▲27.8	▲19.4	▲19.2	▲2.9	▲17.6



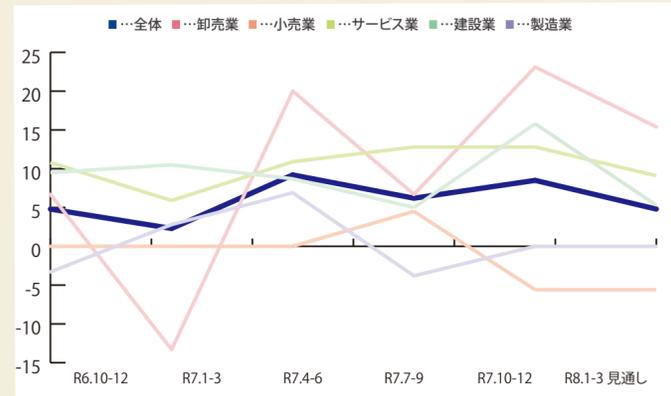
長期資金借入難度(容易-困難)

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	▲0.8	0.8	7.1	0.8	3.1	1.6
卸売業	▲6.3	▲13.3	26.7	6.7	15.4	15.4
小売業	▲4.3	▲4.2	▲5.3	▲9.5	0.0	0.0
サービス業	8.1	2.9	9.1	4.2	2.2	0.0
建設業	0.0	5.3	4.5	5.0	5.3	5.3
製造業	▲6.7	5.6	3.4	▲3.8	0.0	▲3.2



短期資金借入難度(容易-困難)

	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3 見通し
全体	4.8	2.3	9.2	6.2	8.5	4.8
卸売業	6.7	▲13.3	20.0	6.7	23.1	15.4
小売業	0.0	0.0	0.0	4.5	▲5.6	▲5.6
サービス業	10.8	5.9	10.9	12.8	12.8	9.1
建設業	9.5	10.5	8.7	5.0	15.8	5.3
製造業	▲3.3	2.8	6.9	▲3.8	0.0	0.0



その他業種別自由意見

	好転	悪化
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・受注が増えた。 ・従業員が増えたことで各自の仕事内容が効率化され、会社の経営力が上がるのを期待している。輸入商品の仕入価格は上がっているが、日本製商品の仕入価格は落ち着いてきているように感じる。 ・年度当初が非常に悪かった。それに比べるとよい結果になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入価格の上昇。 ・お客様からの設備投資のお話が極めて少ない。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・取引先の増加。 ・業況の改善が感じられ問い合わせが多くなった。 ・イベントが活発になり売上げも増えた。 ・石産業のみでは低迷するため、本格的に金物業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロパー需要の減少。 ・取引業者の送料負担増。 ・業界全体の客数が減っている。38年程事業を行っているがこんなことは初めて。 ・石産業の衰退。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・受注が増えた。 ・軽油価格の低下によるコスト削減効果。 ・新たな事業展開の拡張性の傾向がある。 ・好転しているかは別にして、今までのやり方の継続では続かない。好転する前段階であると認識している。 ・生徒数、売上げ増。 ・こういう情勢だからこそ、健康や病気の予防などが大切だと感じておられる新規の顧客が増えた。 ・燃料費価格低下。 ・販売価格の上昇を受け入れてもらえる状況になり仕事量が同じでも売上げ、利益は増加。 ・利用を終了される方が減少し、新規利用者が増加した。ガソリン代が減少した。 ・問い合わせ、依頼含め年末にかけて増え対応に追われた。引き続き丁寧な対応を心がけます。 ・リピーターの増加。 ・料金の見直しをしたことで収支が合ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪日中国人観光客が減少し都市部の宿泊料が安くなっている。今後その影響がでてくると思われる。 ・顧客先の採算悪化、事業所閉鎖等がみられる。 ・単価が下がった。 ・人件費の上昇。 ・運搬車両増車によるリース料の増加。 ・人件費の向上対策とより良い人材の確保について新たな取り組みを考えないといけないと思う。 ・従業員の人数が追いついていない。 ・顧客様の予約頻度に多少なりとも影響しているように感じる。 ・パート従業員の最低賃金上昇。 ・仕入価格の上昇。 ・物価高による買い控えの傾向が見られ、購買力が減少している。 ・人件費の上昇に伴い社会保険料の手続きが必要になり、経費が増加すること。 ・里親数の減少。 ・電子機器や車両の価格高騰とまらず設備投資に勇気がある。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・人員を増やした。 ・独立により社員が減ったが採算性は良くなった。 ・空家対策に伴う解体工事。 ・元請け先が増え売上げも増えた。 ・前期が繁忙期の分、後期売上げは下がっているが昨期より仕事の流れがある。 ・補助金事業が増えて受注が増えた。 ・材料費、人件費の上昇分を販売価格へ転嫁できるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受注額が小さくなってきている。 ・原材料費の高騰。 ・既存建物や現地改築が減少。 ・価格転嫁は進むが経費増、仕入価格も上昇。 ・設備投資が一服感あり。引き合いが低調。 ・天気都合で伸びてお客様に迷惑をかけた。 ・メーカー等の資材は半期事に価格改正が行われ、見積もりと合わない事が多くなった。 ・地域企業の設備投資に伴う案件数が減少した。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・新規顧客からの問い合わせ増。 ・お客様からの受注が徐々に回復し生産が増える製品が増えてきた。 ・価格転嫁が一定程度浸透し、増収増益につながった。 ・主要原材料価格の上昇が落ち着き一定程度安くなってきている。また温暖化の影響で薄くて涼感のある生地が売れ筋に、上手く商品に落とし込めば商品1点あたりの利益率は大幅に良くなる。工場全体の生産、販売戦略を市場に最適化していけば全体としての採算も改善の余地がありそう。 ・同業他社の業務縮小、後継者難による廃業などの影響で新規生産先開拓に関して問い合わせが増えてきた。先方設備の移転も行いながら生産の受注に結びついている。 ・今期も労務費の価格転嫁を販売先に交渉して認めていただけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存商品の顧客内製化による付加価値減。 ・経費削減のため残業を押し付けたことにより契約社員の退職が増えた。 ・競合との競争が増している。大型案件もトランプ関税の影響が停止し、動きが鈍くなり回復がだらだらと尾を引いているように感じる。 ・お客様の注文の金額が減少している。 ・原料となる米代の価格高騰。 ・足元では仕入価格や物流費、人件費などすべてがまだまだ上昇していく方向にあり今後の業績に予断を許さない状況にある。 ・市況の悪化と先行きの不透明感から定番品の受注が減少。原材料を除くその他のコスト(光熱費、人件費、消耗品など)軒並み上昇、価格転嫁が受注減少にも少なからず影響している。 ・為替円安が続き輸入原材料仕入価格の高騰で複数国、複数企業との交渉と品質確認作業に時間と手間がかかっている。 ・コロナ禍時に手形払いから振込払いに変更された取引先が突然手形払いになった。 ・半導体装置の設備投資落ち込み。 ・円安。 ・原材料価格や人件費は上昇しており、利益率は悪化傾向。